

氏 名	沖田 浩一
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第305号
学位授与年月日	平成21年3月20日
審 査 委 員	主査 教授 原田 孝之
	副査 教授 富岡 治明
	副査 教授 益田 順一

論文審査の結果の要旨

Barrett食道は食道腺癌発生の母地であり将来その増加が予想されるなど、近年臨床的重要性が増している。申請者は、国際分類に基づき長軸長3cm以下のshort-segment Barrett's esophagus (SSBE)についての有病率や影響因子等の基礎的臨床データを得ることを目的に、自施設での上部消化管内視鏡検査症例を解析した。2005年からの3年間で検査された5338症例のうちSSBEの有病率は37.4%であり、高齢者において有意に高い有病率とSSBE長を、またSSBE長は、年齢、逆流性食道炎、逆流症状、裂孔ヘルニアとの正の関連を認めた。2003年から2年間経過観察された、組織学的に杯細胞が確認されている236症例では、28%にSSBEの伸長、9.3%に消褪を認め、胃酸逆流と裂孔ヘルニアはSSBE伸長の正の、proton pump inhibitor投与は負の独立予測因子であることを明らかにした。この研究は、日本人のSSBEについての基本的かつ新しいデータを提示したものであり、当該研究分野発展の基盤となるべき優れた臨床研究である。